

## 著者紹介

### 原聖 [はら・きよし]

1953年信州伊那谷出身、一橋大学大学院修了。女子美術大学名誉教授・客員研究員。専門は欧州言語社会史、比較民俗学。主な著書に『周縁的文化の変貌——ブルトン語の存続とフランス近代』（三元社、1990年）、『〈民族起源〉の精神史——ブルターニュとフランス近代』（岩波書店、2003年）、『ケルトの水脈』（講談社、2007年、講談社学術文庫、2016年）など。

### 久野俊彦 [ひきの・としひこ]

1959年栃木県生まれ、都留文科大学、東洋大学大学院博士前期課程修了、博士（文学）。東洋大学・実践女子大学非常勤講師、ただみ・モノとくらしのミュージアム館長。専門は日本民俗学・日本文学。著書に『偽文書学入門』（共編著、柏書房、2004年）、『絵解きと縁起のフォークロア』（単著、森話社、2009年）、『日本の霊山読み解き事典』（共編著、柏書房、2014年）など。

### 鈴木英恵 [すずき・はなえ]

1981年群馬県生まれ、神奈川大学大学院 歴史民俗資料学研究科博士後期課程修了、博士（歴史民俗資料学）。群馬バース大学非常勤講師。専門は日本民俗学(医療民俗学、絵の民俗学)。論文に「初絵の習俗と画像資料」（『信濃』73巻1号、2021年）、「宝珠の玉を描く絵師—宮城県気仙沼地域における正月飾りの絵—」（『西郊民俗』261号、2022年）など。

### 三津山智香 [みつやま・ちか]

1990年茨城県生まれ、筑波大学人文社会科学研究所歴史・人類学専攻修了、博士（文学）。筑波大学特任研究員。専門は日本民俗学。論文に「人・家畜・カミの関係から捉える蒼前信仰—青森県十和田市を事例に—」（『日本民俗学』297号、2019年）、「馬産地十和田における昭和30～50年代の変化—家畜飼養の変化に着目して—」（『国立歴史民俗博物館研究報告』207集、2018年）など。

### 加藤紫識 [かとう・しのぶ]

東京都出身。和洋女子大学 全学教育センター准教授、博士（民俗学）。千代田区教育委員会／千代田区立日比谷図書館（文化財事務室）、日本女子大学（非常勤講師）などを経て現職。主な論文に「日本民俗学の研究動向（2012～2014）人生をめぐる民俗研究」（『日本民俗学』293号、2018年）、「博物館資料にみる都市の人生儀礼」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第205号、2017年）など。

### 三山陵 [みやま・りょう]

1947年生、埼玉大学大学院修了、博士（学術）。日中藝術研究会事務局長、天津大学馮驥才文学藝術研究院木版年画研究中心特邀研究員。専門は中国新興版画、中国民間美術。主な編著書に『中国抗日戦争時期版画史の研究』（研文出版、2007年）、『中国木版年画集成・日本藏品巻』（中華書局、2011年）、『フルカラーで楽しむ 中国年画の小宇宙——庶民の伝統藝術』（勉誠出版、2013年）など。

### 中尾徳仁 [なかお・のりひと]

1976年奈良県生まれ、奈良教育大学教育学部卒。天理大学附属天理参考館学芸員。専門は清末民初期の中国民間美術研究（主に玩具・版画・看板など）。主な著書に『《伝道参考シリーズ・XXX》天理参考館の漢族資料』（天理大学おやさと研究所、2017年）、主な論文に「外国人宣教師の目線で作られた土山湾孤児院の黄楊人形—天理参考館所蔵資料を例にして」瀧本弘之・戦畷梅編『アジア遊学 269 近代中国美術の境界——越境する作品、交錯する藝術家』（勉誠出版、2022年）など。

### 上田あゆみ [うえだ・あゆみ]

1986年生まれ、神奈川県出身、パリ＝ソルボンヌ大学大学院美術史・考古学学科修士課程修了。2019年から一橋大学大学院博士後期課程に在籍中。専門はフランス近代美術史、日仏美術交流史。論文に「ピゴアの帰国後の芸術活動と日本の表象」（『ジョルジュ・ピゴア』展図録、宇都宮美術館、2021年）など。

### 湯浅淑子 [ゆあき・よしこ]

東京都出身、東京学芸大学初等教育教員養成課程社会科選修卒業。1988年よりたばこと塩の博物館学芸員。専門は日本近世史。論文に「江戸のおもちゃ絵」（藤本幸夫編『書物・印刷・本屋——日中韓をめぐる本の文化史』勉誠出版、2021年）、「とてつる拳と鯨絵」（『黄雀文庫所蔵 鯨絵のイマジネーション』展図録、国立歴史民俗博物館、2021年）など。

### Christophe Marquet [クリストフ・マルケ]

1965年フランス生まれ、フランス国立東洋言語文化大学（INALCO）で東洋学博士号取得。フランス国立極東学院(EFEO)教授・京都支部長、京都大学人文科学研究所特任教授。専門は江戸・明治の美術史。著書に『大津絵——民衆的諷刺の世界』（角川ソフィア文庫、2016年）、『Hiroshige: Les éventails d'Edo』（広重の団扇絵、In Fine社、2022年）など。江戸期の絵入本を多数仏訳。